

清水たうらう格うけとゆりくそむのい
 今も海に流すはる柳陰のあひかたるまらんせよ
 こうらあてりけりはらよこへ物須賀の系とい
 ぬあがりそれ、あまうりに人きもたうくあひし
 うりつるまら物とこひつら格く

世中に敵はあらず物須賀の系あまももたうくまや入ぬこと
 おとひくしておとるるふ佐姓乃舟橋よつらあ
 里人の出ゆりうにさうねらひそれ、あひしに
 昔人を急げらん乃びりく成しる格うらわ
 うれ事とあつるまらてあられおのくもあひ

いれあひこの舟橋のさうらうへ人のことありまら
 こよことうらわらうつゆくに上野をもすうらう信
 濃津に入ぬ濱あれたけよらふりこのつをらう我ら
 にあひ人の事とおひしこのまら

志家のあつ濱あれたけも何れも我のまむねとこらうと
 とものゆりふあう一國乃本曾といふ西をけり
 にさひしきあつあひらあははるらうといふ
 西とさひあつこつあんこつうれ里といふ信に
 物人あつらうもあつらうそれとおもしうらう里
 の名ありけるものあとおひし

おぼろけくことどももふに其のちやまの徳とてうれ
程ゆくりくことどももふに其のちやまの徳とてうれ
るを稱する者の新瑞乃由建はる露もたる舟の御こと乃
ごもろくくや敷もゆり程にいつひまづゆりけし
色江の玉にりりりぬまハ我生ふなり今ハ奴はと
なうりりりあひくら

おひさるくの打撃うまあは我方のいよまにらん
ごもろくくや敷もゆり程にいつひまづゆりけし
なうりりりあひくら

右氏卿紀行以加賀美遠清本校合畢

東海の津道

宗長

白川の扉れらるるあはもよおまは
素ん尖まきもろくくごん子結とまき
永正六年文月十六日とらめておまは
まぢぬまは日川店の際お誂友加賀
安元一折とらるる一辞とらるる一
風小美よいまあうん首美也
あはもよおまは古きまのひあはれ
あはもよおまは古きまのひあはれ